

2025年度 環境報告書



目次 1

1. 企業理念
2. 丸五ゴム工業株式会社 環境方針
3. 環境への取組みの沿革
4. 環境管理組織
5. 2025年の主な取組みの実績
6. カーボンニュートラル（CN）推進活動

目次 2

7.環境配慮活動事例

8.廃棄物削減及びリサイクル

9.おかやまプラスチック3R宣言事業所

10. 環境リスク予防活動

11. 従業員への啓蒙活動

12. 地域貢献活動

1.企業理念

1. お客様・仕入先様・従業員・地域社会に信頼していただける会社をめざし、仕事を通じて社会に貢献する。
2. 正々堂々と正道を歩むことを行動規範とする。
3. 独自性が高い製品開発とムダのないモノづくりを基盤に、進化・成長を続ける。

2.丸五ゴム工業株式会社 環境方針

基本理念

当社は、事業を通じて社会に貢献するという企業理念のもと、自動車用途を主とした工業用ゴム・樹脂製品を開発・製造・販売する企業として、カーボンニュートラル実現を目指し、温室効果ガスの排出削減などに取り組むことにより、持続可能な社会の実現に貢献します。

行動指針

1. 環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムの監査を定期的実施し、環境パフォーマンスを向上させるためにシステムの継続的改善を推進します。
2. 環境関連規制、条例、協定等を順守し、地域社会を大切にします。
3. 次の項目に主体的に取り組み、事業活動を通じて、省資源および省エネルギーに努め、地球温暖化防止と環境の保全を図ります。
 - ① 環境配慮製品の開発・製造・販売
 - ② V O C（揮発性有機化合物）の削減
 - ③ 廃棄物削減及びリサイクル
 - ④ 省エネルギー
 - ⑤ 物流の効率化
4. 環境方針を記載した『⑤手帳』を全従業員へ、『環境カード』を敷地内の供給者へ配布し、周知するとともに、適切な教育・研修により環境意識の向上を図ります。また、環境方針はホームページ等で開示するとともに、変化する環境課題に合わせて内容の見直し、改定を行います。

3.環境への取組みの沿革 2002年～2011年

- 2002年 6月 **ISO14001認証取得**
- 2006年 9月 岡山県より「**岡山エコドライブ事業所**」に認定
- 2008年10月 経済産業省が進める「CO₂試行排出量取引スキーム」に参加
- 2009年 8月 本社工場(現：倉敷事業所) 重油ボイラーから、CO₂発生量の少ない
都市ガスボイラーに更新
- 8月 本社工場・矢掛工場(現：矢掛事業所)が岡山県より、
「**アースキーパーメンバーシップ会員**」に登録
- 2010年10月 本社及び本社工場(現：倉敷事業所)・矢掛工場が、岡山県より、
「**岡山エコ事業所 ゼロエミッション事業所**」に認定
- 2011年 8月 矢掛町と「**丸五矢掛の森 森づくり協定**」を締結

3.環境への取組みの沿革 2012年～2016年

- 2012年 7月 国内クレジット「矢掛町における太陽光発電事業」で
CO₂183 t を矢掛町より購入
- 2013年 6月 前年に引き続き、CO₂103 t を矢掛町より購入
- 2014年 2月 本社工場 出荷センター屋根に太陽光パネルを設置・稼働
- 4月 矢掛工場 樹脂工場屋根に太陽光パネルを設置・稼働
- 2016年 3月 本社及び本社工場・矢掛工場が
「**岡山エコ事業所 ゼロエミッション事業所**」 認定更新
- 2016年 5月 **伊勢志摩サミットカーボン・オフセット**に参加 CO₂286 t 償却
- 11月 経済産業省・環境省・農林水産省より、
伊勢志摩サミット カーボン・オフセット感謝状を受領

3.環境への取組みの沿革 2017年～2023年

- 2017年 6月 環境省より「**COOL CHOICE賛同証明書**」を受領
- 2018年 3月 「丸五矢掛の森活動」が小学校5年生社会科副読本に掲載
- 2021年 1月 岡山県より本社及び本社工場・矢掛工場が
「**おかやまプラスチック3R宣言事業所**」に登録
- 2021年 3月 岡山県より本社及び本社工場・矢掛工場が
岡山エコ事業所「**ゼロエミッション事業所**」認定更新
- 2023年 2月 倉敷事業所 太陽光PPA導入
- 2023年 3月 モリंगा環境プロジェクト入会
- 2023年 7月 **CN（カーボンニュートラル）推進部会設置**

3.環境への取組みの沿革 2023年～2025年

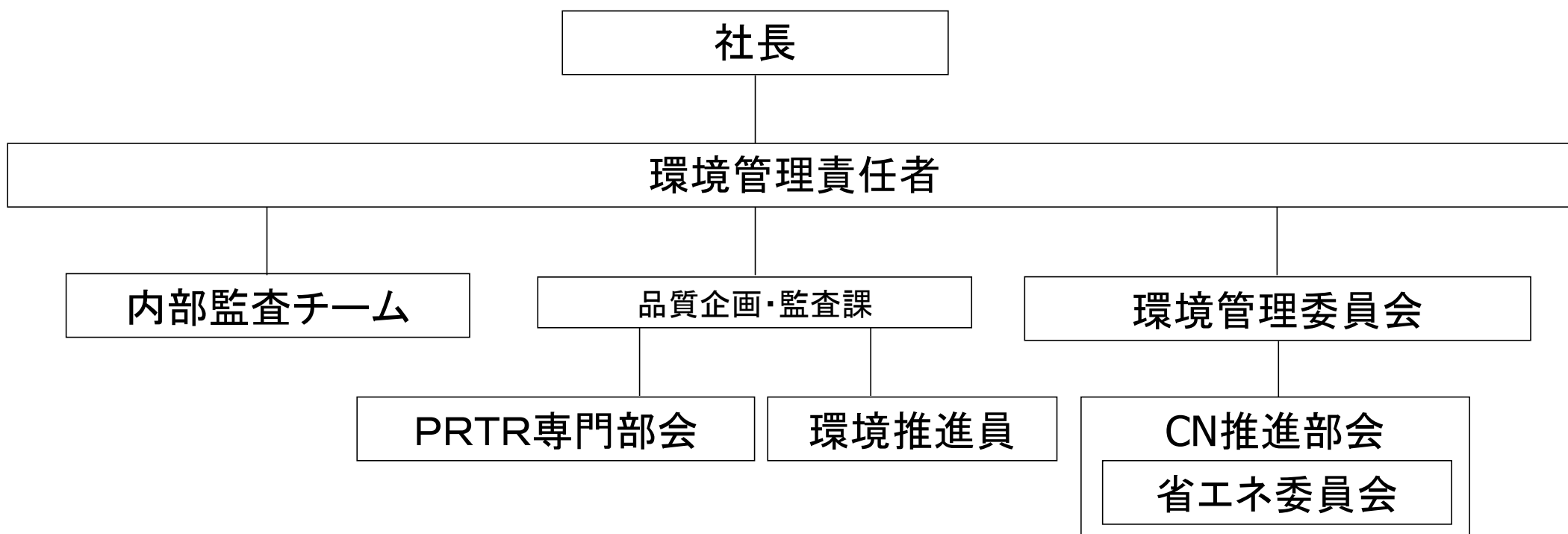
2023年 10月 矢掛江良工場 太陽光PPA導入

2024年 10月 環境省が推進するデコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る
国民運動）宣言に登録

12月 岡山県より矢掛事業所が「**おかやまプラスチック 3 R 宣言事業所**」の
【**優良取組事例**】として取材を受ける

2025年 4月 矢掛事業所 太陽光PPA導入

4.環境管理組織



5.2025年の主な取組みの実績

(1) 廃棄物



項目	部門	目標	実績	達成度	今後の取組み
廃棄物削減	倉敷工場	原単位 190.0kg/百万円 以下	179.3kg/百万円	○	
	矢掛工場	原単位 139.0kg/百万円 以下	133.8kg/百万円	○	
廃棄物 リサイクルの 推進	倉敷工場	発生廃棄物 リサイクル率 99%以上	100%	○	
	矢掛工場	発生廃棄物 リサイクル率 99%以上	99.8%	○	

5.2025年の主な取組みの実績

(2) 環境配慮製品、カーボンニュートラル省エネ



項目	部門	主な取組内容	達成度	今後の取組み
環境配慮製品の 開発	防振技術部	リサイクル、軽量化製品の開発	○	
	ホース技術部	リサイクル、軽量化製品の開発	○	
	新規事業開発部	リサイクル製品の開発	○	
カーボン ニュートラル 省エネ	全社	CO ₂ 排出量の削減	○	
	倉敷工場	電力・燃料使用量原単位削減	○	
		CO ₂ 排出量の削減	○	
	矢掛工場	電力・燃料使用量原単位削減	○	
		CO ₂ 排出量の削減	×	省エネ推進及び 適切な再エネ利用

5.2025年の主な取組みの実績

(3) VOC削減、物流の効率化



項目	部門	主な取組内容	達成度	今後の取組み
VOC削減	倉敷工場	接着剤使用量原単位削減	○	
	矢掛工場	トルエン使用量原単位削減	○	
物流の効率化	倉敷工場 矢掛工場	製品輸送の効率化	○	

6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

(1) 丸五ゴム工業 『CN推進方針』 について

“Marugo カーボンニュートラルチャレンジ”

～丸五ゴム工業は、「持続可能な社会」の実現に貢献します～

丸五ゴム工業は2030年までに温室効果ガス排出量を2013年度比マイナス46%の実現を目指します。これにあわせて、2030年の目標実現に向けたシナリオを想定し、当社として必要な対応と進むべき方向性を検討しました。その中で、2030年目標実現を目指すためカーボンニュートラル推進計画を策定しました。持続可能な社会の実現に向けて「温室効果ガス削減（主に脱炭素）促進」のために全社を挙げて取り組むテーマとして3つの挑戦を行います。

- ① 製品開発においては、温室効果ガス削減に向けて環境配慮製品の開発（軽量化、電動化対応等）、お客様のニーズに応じた最適な製品を積極的に投入していきます。
- ② 事業活動・生産活動においては、省エネルギー対策の強化・非化石エネルギーの利用拡大に取り組めます。
- ③ カーボンニュートラルを目指した新規事業の開発、海外拠点への取組みの拡大、そして環境保護することにより地域社会を大切にします。

6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

(2) 「CN推進部会」の設置

社長

環境管理委員会

C N 推進部会

部会長: 環境管理責任者(総務人事部長)

事務局: 品質企画・監査課長(ISO事務局)、総務課長

A:製品開発・営業グループ

主な役割

- ・環境配慮製品開発
(軽量化、電動化対応等)
- ・お客様要求対応

●メンバー

設計2名、営業1名、事務局 1 名

B:製造本部 グループ

主な役割

- ・省エネ、非化石エネルギー推進
- ・CBAM、省エネ法等の法令対応
- ・仕入先対応: 丸五グループの
省エネ活動支援

●メンバー

生産技術2名、製造2名、調達2名、
事務局2名

C:新規開発・支援グループ

主な役割

- ・方針/目標設定
- ・新規開発
- ・補助金情報・投資計画
- ・社外PR・地域貢献
- ・海外展開
- ・労働組合関係他社情報収集

●メンバー

経営企画1名、新規事業1名、労働組合1名、
事務局 2名

製品CO₂検討グループ (2025年設置)

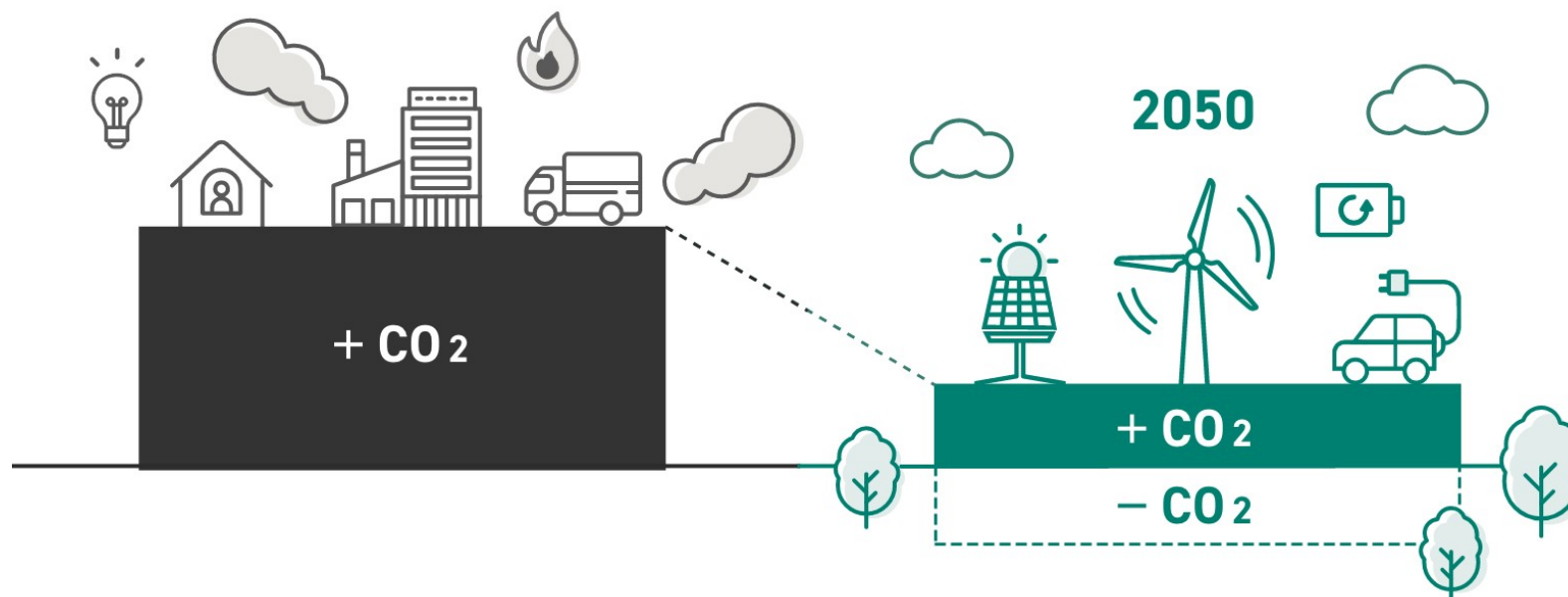
お客様からの製品CO₂算出要求に対応する。

各WGからメンバー選出 ●メンバー : A 4名、B 5名、C 2名

省エネ委員会(倉敷事業所、矢掛事業所)

6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

（3）カーボンニュートラルとは



「排出を全体としてゼロ」というのは、**二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」**から、**植林、森林管理などによる「吸収量」**を差し引いて、**合計を実質的にゼロにすること**

日本では2020年 当時の菅首相が日本政府の方針として、2050年カーボンニュートラルを宣言。

CO₂排出量はエネルギー使用量に排出係数を掛けて算出する。

出典：環境省脱炭素ポータル

6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

(4) Scope1～3とは

サプライチェーン排出量 = **Scope1排出量** + **Scope2排出量** + Scope3排出量



Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3：Scope1,Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

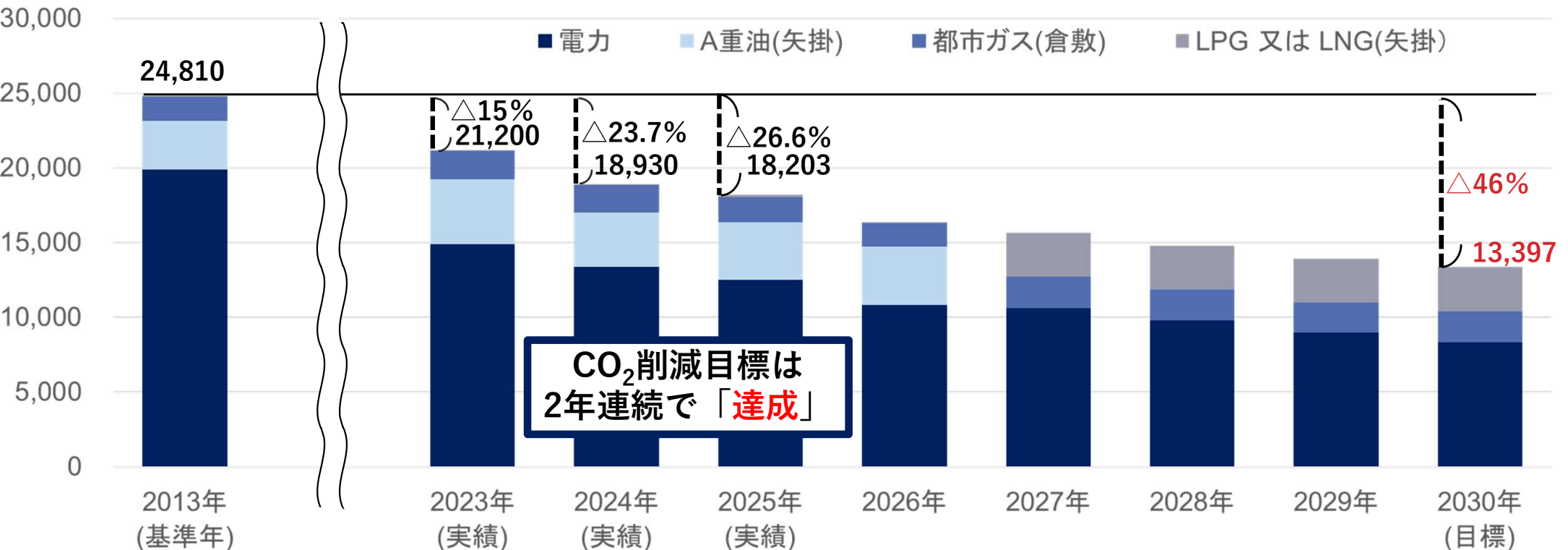
6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

(5) 当社のCO₂排出量目標 2030年までのロードマップ



単位：t-CO₂

【CO₂排出量実績/予測と2030年目標】



※基準年を100%として、基準年に対する削減率(△%)を表示しています

2026年は目標16,348t- CO₂以下に向けて取り組んでいます。

6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

(6) 当社のCO₂排出低減のための改善事例



改善事例	実施事業所	CO ₂ 削減効果(t-CO ₂)
再エネ電力導入	倉敷・矢掛	1,014t-CO ₂
コンプレッサ省エネ診断による適正化等	倉敷	70t-CO ₂
エアリークビューア活用によるエア漏れ修理活動	倉敷	50t-CO ₂
省エネタイプ射出成形機へ更新	倉敷	17t-CO ₂
ボイラー更新	倉敷	13t-CO ₂
保全棟建屋断熱工事	倉敷	2.9t-CO ₂
太陽光発電導入（PPA）	矢掛	148t-CO ₂
クーリングタワー更新、エア漏れ修理活動等	矢掛	137t-CO ₂
変圧器 高効率機へ更新	矢掛	6t-CO ₂
蛍光灯・水銀灯→LED照明への更新	矢掛	4t-CO ₂

6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

(7) 当社のCO₂排出低減のための改善事例

モリンガ植林(カーボンオフセット)

倉敷事業所本館玄関前での栽培

2025年5月～11月にかけて鉢植え30本栽培

→CO₂吸収 100kg/本×30本/年 = 3t/年

モリンガとは？

- 👍 杉の木と比べ10倍以上のCO₂吸収力
- 👍 スーパーフードといわれるほど栄養価が高い
- 👍 インド原産

カーボンニュートラルのCO₂排出削減の取組みと併せて、CO₂吸収(カーボンオフセット)の観点で活動していきます。



従業員個人での栽培



6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

（8）製品CO₂調査体制確立のための取組み



自動車メーカーからの
要求を予測



製品CO₂算出体制構築は必須



新WG設置（2025年）

WG発足直後に、ある自動車メーカーより実際に調査依頼がありました

製品CO₂調査をするのに必要なことを下記のように設定し、調査体制確立のために取り組んでいます。

- ・法令（例：EU CBAM 法規対応）対応
 - ・お客様からの情報収集
 - ・材料等設計関係調査方法確立
 - ・工程関係調査方法確立
 - ・調査フォーマットの確立（社内、仕入先）
 - ・システム化検討、DX推進
- 外部システムについての情報収集、打ち合わせ
製品情報に関する社内基幹システムとの連携



- ・算出方法は、現在検討中
- ・自動車工業会統一フォーマット（JAMA法）での調査依頼に対応中

6.カーボンニュートラル（CN）推進活動

(9) カーボンニュートラルに関する取り組み事例を社外講演



- ・ 2026年2月17日に岡山県産業振興財団主催のセミナーで、当社のカーボンニュートラルに関する取り組み事例を講演しました。
- ・ 講演により、参加者の課題解決や新たな取り組み促進に少しでもお役に立てれば幸いです。



講演の様子

7.環境配慮活動事例（環境配慮設計1）

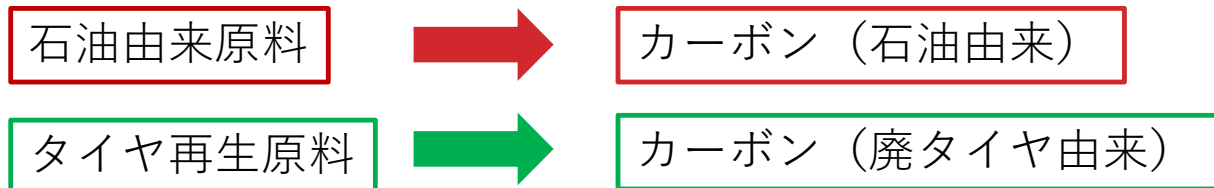
廃タイヤを熱分解して得られた原料から製造された
タイヤ再生カーボンへの置き換えによる再生資源の活用

○カーボンとは

ゴムに補強性を与えるために添加するもの

○タイヤ再生カーボンへの置き換えの目的

一般的にカーボンは石油由来原料から製造されるが、タイヤ再生カーボンに置き換えることで
廃棄物削減が期待される。



○タイヤ再生カーボンの評価結果

顧客要求の材料規格を満足することができた。

○課題

石油由来原料に比べてタイヤ再生材料は高価。
⇒将来生産量が増えて価格が下がることに期待。

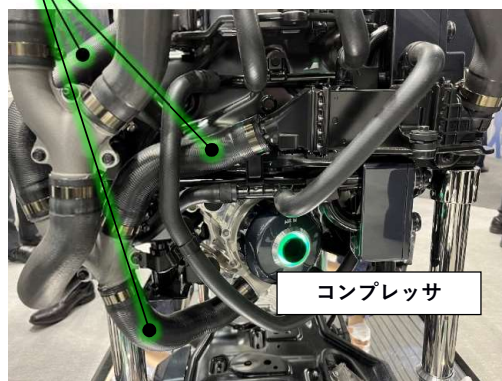


7.環境配慮活動事例（環境配慮設計2）



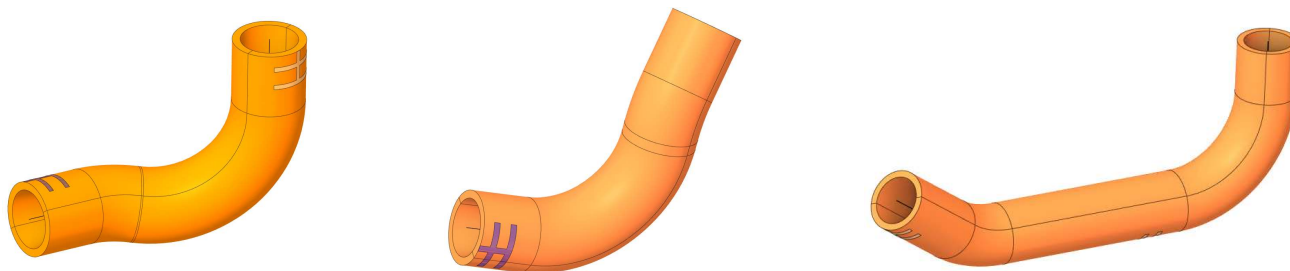
高い信頼性を実現した定置電源用燃料電池向けエアホースが量産採用

対象ホース



燃料電池システムに求められる高い信頼性と耐久性を実現するため、当社が長年培ってきたゴム配管設計・製造技術を活用し量産化。

燃料電池は、脱炭素社会の実現に向けた重要なエネルギー技術として期待されており、非常用電源など幅広い用途での活用が進んでいます。

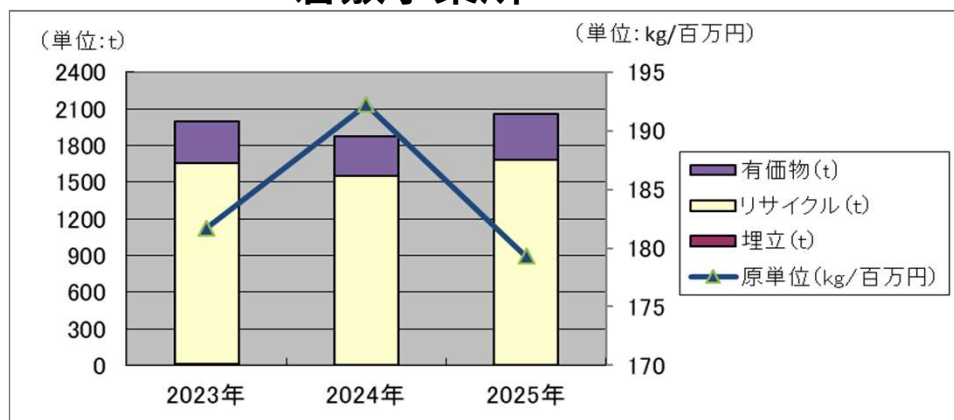


いずれもFKM/VMQラッピングホース

8.産業廃棄物削減及びリサイクル

(1) 産業廃棄物発生量と原単位の推移

倉敷事業所

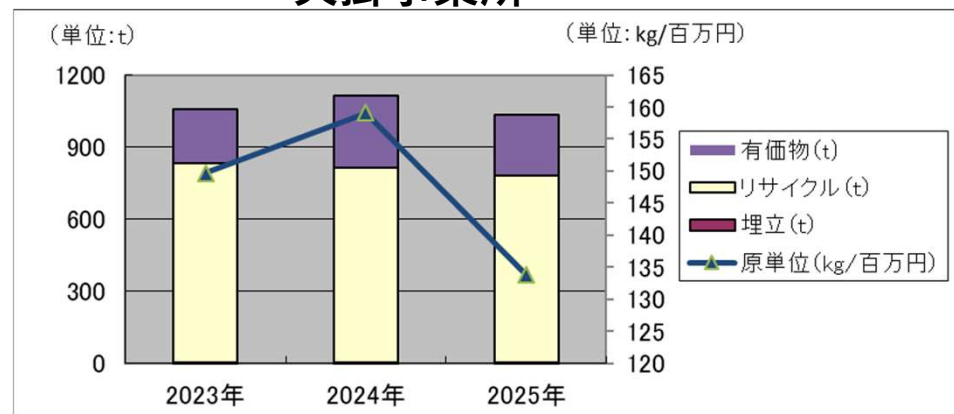


2024年は一步及ばず目標を達成できませんでしたが、2025年は取り組みの積み重ねが実を結び、売上増加比率以下で廃棄物の排出を抑制し、目標を達成しました。

引き続き不良低減、梱包資材の再利用などに取り組んでいきます。

2026年度も5月末累計で174.2kg/百万円と目標を達成しています。

矢掛事業所



2024年に課題であった不良の抑制により、2025年は目標を達成しました。

現在は押出工程での廃棄ゴムに重点に置いて、廃棄物削減に取り組んでいます。

2026年度も5月末累計で120.4kg/百万円と目標を達成しています。

8.産業廃棄物削減及びリサイクル

(2) 倉敷事業所

製品出荷時に使用する梱包資材の再利用

ダンボールパット（TH-13・K-24）の
専用置場を空容器置場内に設置し、
お客様から返却されたダンボールパットを
再利用しています。

（濡れたものや汚れた物は廃棄）

梱包資材の再利用による段ボールパット削減効果
合計 約3万枚/年削減



8.産業廃棄物削減及びリサイクル

(3) 矢掛事業所

<改善前>

成形機で生産終了後の設備内のゴムを抜き取り
廃棄ゴムとしていました。

<改善後>

翌日同じ成形機で同材料のゴムの生産をすることで、
上記廃棄を無くし、材料替え時に廃棄するゴムを削減
できました。

廃棄物削減効果：△ 1.5 t /年



9. おかやまプラスチック3R宣言事業所

(1) 宣言内容

丸五ゴムは、2021年から「2」「3」「5」の3点について、取組みを行っています。



宣言内容一覧 [取組む内容を1つ以上選択してください] ※FAX送付の際はこのチェックボックスに☑チェックをしてください。

☐ 1 従業員がマイボトル等を積極的に利用し、プラスチック製品の使用を削減します	☐ 8 お客様にマイバッグの積極的な利用を呼びかけます
☒ 2 事務所等で使うプラスチック製品の調達は長く使えるものを選びます	☐ 9 ストローなどの使い捨てプラスチックの利用・提供を減らします
☒ 3 事務所等で使うプラスチック製品の調達はリサイクル製品を選びます	☐ 10 レジ袋有料化等により得られた収益金を環境活動等の支援のために寄附します
☐ 4 従業員やお客様のプラスチックごみは、分別や洗浄し、リサイクルを徹底します	☐ 11 海に流出するごみを減らすため、ごみ拾いを実践します
☒ 5 製造工程で出たプラスチックの端材や不良品のリサイクルを行います	New! ☐ 12 お客様のマイボトル、マイ容器に対応します
☐ 6 プラスチック製品の材料を紙などの代替素材又は、生分解性の材料に変更します	☐ 13 _____
☐ 7 プラスチック製の梱包材やプラスチック製容器包装を減らします	_____

	(その他・自由記載)

9. おかやまプラスチック3R宣言事業所

(2) 環境に配慮したプラスチック製品の購入について

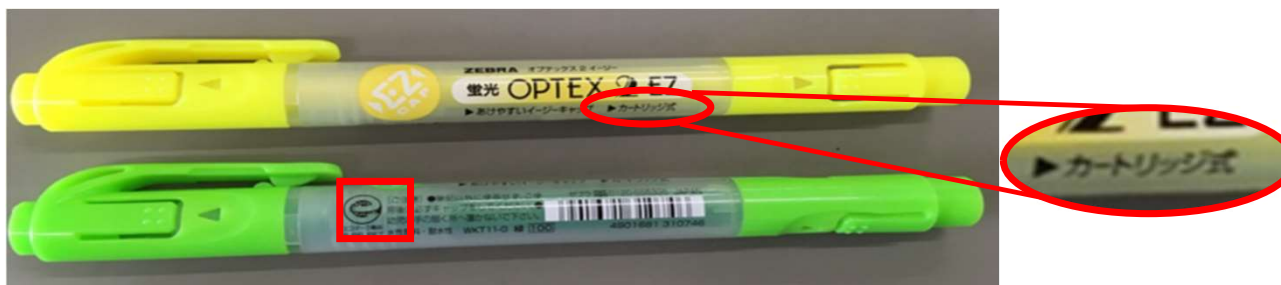
丸五ゴムでは再生品やエコマーク等、環境に配慮したプラスチック製品の購入に努めています。

<環境配慮への取組み>

区分	調達品目	単位	購入数 (A)	環境配慮購入数 (B)	環境配慮調達率(%) (B/A)
文具類	ペン類	本	1,284	1,284	100%

・文具類取組例

蛍光ペンなどは**エコマーク**の付いたものや、**カートリッジ式**のものを購入し、中身を交換しながら使用することで、廃棄物を減らすように取り組んでいます。



9.おかやまプラスチック3R宣言事業所 プラスチック資源循環促進法

(3) プラスチック使用製品産業廃棄物

プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量

2025年4月～2026年3月

単位：t

事業所	2025年度
倉敷事業所	5.5
矢掛事業所	4.4
合計	9.9

矢掛事業所では上記以外の大半を占めるプラスチック使用製品産業廃棄物や端材は、社内で再利用したり、有価物として売却しています。



9. おかやまプラスチック3R宣言事業所

(4) プラスチック使用製品産業廃棄物のリサイクル例 (矢掛事業所)

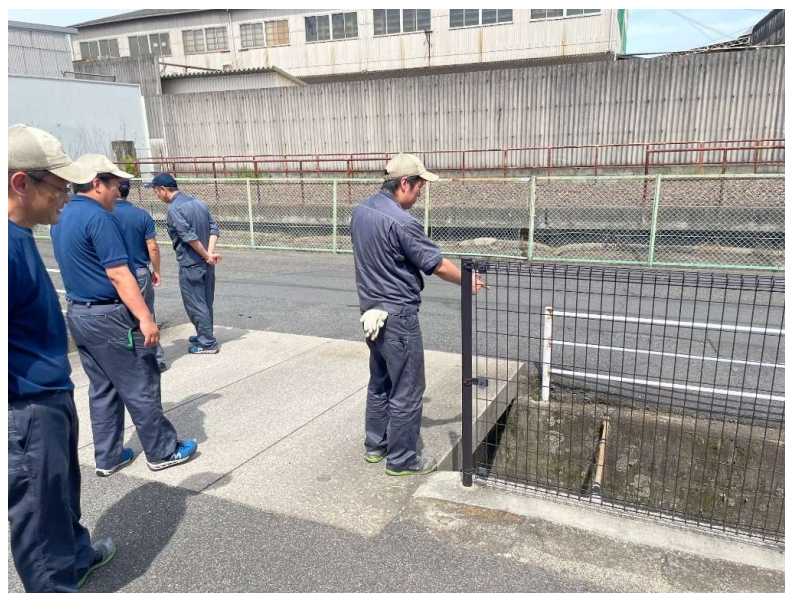


写真：破碎したチップ

不良品や製造段階での端材を細かく砕いて、
社内で製品の**原材料**として再利用しています。

10.環境リスク予防活動

(1) 緊急時排水訓練を実施しました



倉敷事業所での訓練の様子



矢掛事業所での訓練の様子

一般排水経路に工程排水が流れてしまった場合を想定して、排水経路の遮断や、外部への流出を防止するための訓練を実施しました。

10.環境リスク予防活動

(2) 油漏れの対処について

- ・過去の油漏れを受けて、排水路に流れないように対応方法を手順化し、油漏れが起きた場合は、迅速に対応が可能な体制を構築し、訓練しています。
- ・近年、油漏れの社外流出は発生していません。



矢掛江良工場での訓練の様子



油漏れ対応の様子

10.環境リスク予防活動

(3) 環境関係法令順守対応

コンプライアンスの一環として、環境関係の法令順守について下記のような対応を行っております。

1.法令順守確認 年1回

- ・社内規定に基づき、該当全部署法令を順守しているかどうかの定期順守確認
- ・内部監査での確認
- ・グループ会社の順守状況確認

いずれも、問題があった場合には是正処置を行っております。

2. 環境法令教育

- ・法令担当者社外研修：
公害防止管理者リフレッシュ研修
廃棄物実務者研修（毎年）
- ・社内実務者研修：
環境特別教育（廃棄物、CN活動）



環境特別教育の様子

11.従業員への啓蒙活動



1.環境集会 毎年 4 月
環境管理責任者による従業員への環境講話

2.環境推進キャンペーン 毎年 5 ～6 月



環境集会の様子

⑤ 丸五ゴム工業株式会社

ビルドアップ 丸五!!

みなさんに心がけてほしいこと

◎みなさんが環境で取組む内容として、身近なところで具体的には・・・

- ・生産性の一層の向上＝効率を上げる...省エネルギー、コスト削減
- ・節電、省資源＝省エネルギー等...不要な照明を切る、電源を切っておいても問題ない機器・設備の電源を切る(特に夜間)、長時間稼働を立つ場合PCモニターの電源を落とす
- ・廃棄物削減への取組み強化...省資源、コスト削減
- ・3R推進...リデュース(ゴミ・廃棄物削減)、リユース(再利用)、リサイクル(ゴミ・廃棄物再生利用)
- ・環境事故の予防...油漏れや排水トラブルにつながるリスク低減(予防保全)
- ・住民苦情の予防...夜間の騒音に気を付ける
- ・会社取組への協力 ...などなどです。

会社としての活動強化に加え、皆さん一人一人の意識向上、活動への参画が必要です。ご協力をお願いいたします。

環境講話の一部

12.地域貢献活動

(1) 住民苦情発生件数



	2023年	2024年	2025年
騒音	4	2	1
排水	0	0	0
臭気	0	0	0
その他	1	0	1
計	5	2	2

住民苦情発生時には迅速に社内へ情報展開し、対応しております。
2025年に発生しました2件の住民苦情について、対策は完了しています。

12.地域貢献活動（騒音測定実施）

（2）住民苦情には真摯に対応します。



倉敷事業所の東西南北6か所で年1回
昼間・夜間の騒音測定を実施しています。

2025年は全測定地点で法規制値内でした。
今年も年1回 騒音測定を実施して参ります。

図：倉敷事業所敷地境界測定結果

12.地域貢献活動（地域清掃活動）

（3）地域清掃活動に積極的に参加しています。



児島湖流域清掃大作戦

主催：児島湖流域環境保全対策推進協議会



流域クリーン一斉行動

主催：高梁川流域連盟